第６学年「国語」学習指導案

授業者　廣瀬　修也

２月２１日（木）２階Ａ室　１０：００～１０：４０　話し合い１０：５５～１１：４５

１　単元名　　物語の謎を見定め，読み解く『やまなし』

２　単元について

単元目標	○既習の学びを生かし，自分で決めた観点をもとに読み解く。 ○様々な観点からの読みを共有し，『やまなし』の世界観を味わう。

２学期，宮沢賢治作の『雪わたり』を国語の授業で読んだ。一読して不思議に思ったことやみんなで考えてみたいことを出し合い，問いの形にして読み深めていった。宮沢賢治の作品には，独特の世界観がある。６年間，数多くの物語文を読んできた子どもたちにとっても，すぐにその世界観を味わうことは難しそうであった。しかし，自分たちが考えた問いについて考えていく過程で，少しずつ『雪わたり』の世界に入りこんで読んでいる様子だった。

『やまなし』をどのように読んでいくか。５月と１２月の幻灯を比較する，生と死の対比を考える，オノマトペを中心に読む，色を比較しする等，様々な学習活動が考えられる。また，宮沢賢治のことをどこまで知っておくかも問題となる。『イーハトーブの夢』を先に読んだ上で『やまなし』を読むのか，作者のことを学習する前に，『やまなし』を読むことで物語そのものを純粋に読み味わう方が良い等と，議論は尽きないが，本単元では，作者のことを知った上で読み深めていきたいと考えた。事前に宮沢賢治について調べ，どのような思いで物語を書いていたのかまで考えた。その上で『やまなし』を読んでいく。

これまでの学習経験から，多様な視点で物語を読むことで，登場人物のこと・作者のこと・物語の特徴について考えを深められることを，子どもたちは実感している。そこで，読み解くための視点を決める言語活動を設定する。視点は，教師と子どもたちで決める。「表現効果（オノマトペを含む）」「宮沢賢治」「２枚の幻灯」「かにの親子」「色」「生と死」等である。視点ごとにグループを作り，追求した成果を全体で共有していく。この単元では，多様な視点で物語を読むことによって，より物語の世界を読み味わうことができることをねらっている。

３　学習指導計画（８時間目／全１２時間）

（事前）『宮沢賢治』（東京書籍５年）を読み，宮沢賢治についてわかったことをまとめる。

（１）『やまなし』を通読し，初発の感想を書く。（１時間）

（２）読み解くための視点を決め，視点ごとにグループを作る。（１時間）

（３）視点ごとのグループで『やまなし』を読み解く。（３時間）

（４）追求した内容を，学級全体で共有する。（本時３／５時間）

（５）学習のまとめ（最初に読んだ頃のこと・視点ごとの追求のこと・共有したこと・宮沢賢治作品の魅力など）として，新聞を作成する。（２時間）

４　本時の学習について

（１）本時のねらい

視点ごとに追求した内容を全体で共有し，『やまなし』の世界観を読み味わう。

（２）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留　意　点
１　本時で発表するグループが，自分たちが追求した視点とその内容を発表する。	○前時までに話していた内容と，本時で発表される内容につながりがないかどうかを意識できるようにする。
２　担当グループの発表について，話し合う。	○聴き手は自分たちの視点と比較しながら発表を聴き，質問ができるようにする。
３　学習感想をノートに書く。	○学習感想の観点を示す。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

視点ごとに読むことで，『やまなし』を読み味わうことができたかどうか。